

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

百年を超える伝統と実績の上に立ち、グローバル社会において真のリーダーとして世界に貢献できる人物を育成する学校。
◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
◎ 日々の授業、行事、国際交流を通して、「自主・自律」を体現する生徒を育てる。
◎ 地域に信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

2 中期的目標

世界に貢献できる人物を育てるため、生徒につけたい能力を定め、その実現へ向けた取組を行う。
【5つのつけたい能力】
1 将来への高い志と進路実現に向けての確かな学力
2 世界を見据えた広い視野と高いコミュニケーション能力
3 柔軟な発想と探究心による課題発見力と解決力
4 人権を尊重し異文化を受け入れ共感できる包容力
5 責任を持って理念を行動に移す実行力と他者と共に取り組む協働力
1 学力向上と進路実現
(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成
ア 教員間で連携し、教科・科目横断型授業に取り組む。
イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、探究活動の手法を一般教科にも取り入れる。
ウ 進路ホームルームを充実させ、3年間を見通した進路指導を着実に実行する。
※ 国公立大学受験者160名以上（R5 120名、 R6 120名、 R7 115名）
2 国際・科学高校としての質的な深化と成果の普及・発信
(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化・発展
ア 両学科が共に取り組む「総合的な探究の時間」における課題研究を深化させる。
イ ルーブリック評価によって生徒の思考力、表現力等を向上させる。
(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成
ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上させる。
イ 対面とオンラインを有効に活用し、国内外の高校生と交流を深める。
(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実
ア ①SSHの支援による研修や研究発表 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実
イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。
※ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。（R5 94%、 R6 91%、R7 93.8%）
※ 学校教育自己診断「学校生活を通じ、将来の進路や生き方について考える様々な機会がある」90%以上を維持（R5 93,3%、R6 93,3%、R7 92,4%）
※ 学校教育自己診断「社会貢献活動に関わることは大切だと思う」90%以上を維持（R5 97,2%、R6 96,4 %、R7 96,6%）
(4) 取り組みの成果を他校に普及し、積極的な広報活動により本校の魅力、特色を発信する。
ア 校内外の学校説明会で本校の特色を発信する。
イ 近隣の小中学校を行事に招待し、連携を強化する。
ウ 国内外の高校に連携を呼びかけ、オンラインや対面で課題研究の発表会や共同研究を進める。
※ 学校教育自己診断「この学校には他の学校にない特色がある」95%以上を維持（R5 99% R6 98%、R7 98.2%）
※ 学校教育自己診断「学校等で他の人と協力し合うことができる」90%以上を維持（R5 95,8%、R6 96,6%、R7 92,4%）
3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成
(1) 人権を尊重する意識の向上
ア 人権HRをさらに充実させるとともに、研修や情報共有を通して教員の見識を高め、きめ細かな相談支援体制を確立させる。
(2) 「自主・自律」を体現できる生徒の育成
ア 自治会活動、部活動等を通して、生徒が自主的かつ責任ある行動ができるように指導する。
イ 挨拶・清掃・遅刻指導を通して、生徒が自らマナーや規範、「自律」の意味について考える機会を与える。
※ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。（R5 95%、R6 94%、R7 98,1%）
※ 学校教育自己診断「先生の指導は適切である」90%以上（R5 89%、R6 89%、R7 87,8%）
4 働き方改革の促進
(1) 保護者・生徒連絡の方法改善や一斉退庁の促進による時間外勤務時間の削減を進める。
(2) 業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。
※ 時間外在校勤務時間の平均を5%削減する。（R5 +5%、R6 -5%、R7 -6%）
※ 年間時間外在校勤務時間720時間を超える教員を0人にする。（R5 3人、R6 3人、R7 2人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
-----	----------	-------------	-------------	------

府立住吉高等学校

目標				
1 学力向上と進路実現	(1)生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成 ア 教員間で連携し、教科・科目横断型授業に取り組む。 イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、探究活動の手法を一般教科にも取り入れる。 ウ 進路ホームルームを充実させ、3年間を見通した進路指導を着実に実行する。	ア・各教科の「つけたい力」と「具体的方策」を教員間で共有し、教科を横断した授業実施に活用する。 ・外部の助言者を招き、授業力向上をめざす校内研修を行う。 イ・STEP UP LABO（授業力向上チーム）が中心となって公開授業を通した授業力向上に取り組む。 ・ICT 推進委員会が中心となって1人1台端末の体制を整備する。 ウ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。 ・進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。 ・模擬試験後、進路指導部と学年団が連携して分析会を実施し、模試の有効活用を促進する。 ・模試の分析を反映させた校内実力考査を実施し、生徒の学力向上を図る。 ・最後まで志を高く持つよう、粘り強く指導する。	ア・教科・科目横断型授業を5回以上実施。[2回] ・学校教育自己診断（教員）「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている」80%以上を維持 [86.5%] イ・公開授業週間を年に2回以上設定し、個々の授業改善に努める。[3回] ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身に付いた」3.3以上を維持する。[3.51、3.53] ・学校教育自己診断「1人1台端末を効果的に活用している」80%以上を維持 [84%] ウ・系統的な進路 HR を3学年合わせて8回以上実施する。[9回] ・進学講習を3年生は15講座以上[14講座]、2、1年生は10講座以上[14, 13講座]実施する。 ・模擬試験後の分析会を5回以上実施する。[8回] ・国公立大学受験者160名以上 [115名]	
2 国際・科学高校としての質的な深化と成果の普及・発信	(1)国際文化科と総合科学科のさらなる進化・発展 ア 両学科による課題研究を深化させる。 イ ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上。 (2)世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上。 イ 対面とオンラインによる国内外の高校生との交流。 (3)SSH、ユネスコスクールの取り組みの充実 ア ①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④「住高支援ネットワーク」の充実。 イ 平和学習、人権学習の充実。 (4)取り組みの成果の普及、本校の魅力、特色を発信 ア校内外の学校説明会で本校の特色を発信。 イ近隣の小中学校との行事連携。	(1) ア・R6年度からの教育課程改定により、両学科が同時に「総合的な探究の時間」の活動をする。 ・探究サイクルを一般教科等に取り入れ、課題解決型の授業を実施する。 イ・SSHの課題研究で用いているルーブリック評価を普及させるとともに、評価についての研究を進める。 (2) ア・暗誦、ディベート等の指導やSE（スーパーイングリッシュ）、SK（スーパーコリアン）等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。 (3) ア・海外の高校との国際共同研究やオンライン交流を広げる。 ・「住高支援ネットワーク」による課題研究の助言をする人材の活用を進める。 ・府外のSSH指定校との交流を広げ、活発に情報共有を図る。 イ・SDGsをテーマとした「総合的な探究の時間」、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。 (4) ア・校内の学校説明会を生徒にも参加させ、校外の説明会にも積極的に参加。 イ・近隣の小学校を校内の行事に招待し、本校生徒とともに活動してもらう。	(1) ア・1・2年生の「総合的な探究の時間」で課題研究を実施し、その発表会を年間各学年1回以上実施する。[3回] ・探究サイクルを取り入れた教科の公開授業または事例報告を年間2回以上実施する。[2回] イ 学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」90%以上を維持する。[93,8%] 学校教育自己診断（教員）「評価の在り方について、話し合う機会がある」90%をめざす。[71.1%] (2) ア・1年生70人以上、2年生で100人以上がCEFR B1以上となるようにする。[1年生71人、2年生 119人] (3) ア・国際共同研究を実施し、年間1回成果発表会を実施する。[1回] ・「住高支援ネットワーク」の活用を年3回以上[5回] ・府外のSSH連携校を3校以上 [3校] ・共同研究を進める海外の高校を3校以上 [4校] イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[93.8%] ・学校教育自己診断「学校生活を通じ、将来の進路や生き方について考える様々な機会がある」90%以上を維持 [92.4%] ・学校教育自己診断「社会貢献活動に関わることは大切だと思う」90%以上を維持 [96.6%] (4) ア・校内の学校説明会を3回以上実施。[3回] ・校外の学校説明会に10回以上参加。[14回] ・学校教育自己診断「この学校には他の学校にない特色がある」95%以上を維持 [98.2%] ・学校教育自己診断「学校等で他の人と協力し合うことができる」90%以上を維持 [92.4%] イ・小・中学校の生徒を招待する行事を5回以上実施 [5回] ・ホームページの「住高ブログ」を200回以上投稿 [500回] ・SNSを100回以上投稿[360回]	

府立住吉高等学校

3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成	(1)人権を尊重する意識の向上 (2)「自主・自律」を体現できる生徒の育成	(1) ア 人権 HR をさらに充実させるとともに、研修や情報共有を通して教員の見識を高め、きめ細かな相談支援体制を確立させる。 (2) ア・自治会活動、部活動等を通して、生徒が自主的かつ責任ある行動ができるように指導する。 イ・挨拶の励行・遅刻指導・身だしなみ指導を通して、生徒が自らマナーや規範、「自律」の意味について考える機会を与える。 ・学校は公共の場であることを自覚し、日々の清掃活動を通して、身の回りの物を整理・整頓し、快適に学習できるよう指導する。	(1) ア・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90％以上を維持する。[98.1％] ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」80％以上にする。[74.4％] (2) ア・学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」90％以上を維持する。[96.9％] イ・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」85％以上を維持する。[87.8％] ・学校教育自己診断「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる」85％以上に[84.4％]	
4 働き方改革の促進	(1) 保護者・生徒連絡の方法改善や一斉退庁の促進による時間外勤務時間の削減を進める。 (2) 業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。	(1)ア・欠席連絡や学校からの連絡を主としてメール配信サービスによるものにし、電話の連絡や文書配付を極力減らす。 イ・会議に端末を持参し、紙の資料を削減する。 ウ・採点補助ソフトの活用により、採点業務にかかる時間を削減する。 (2)ア・一斉退庁日の周知と長期休暇中の定時退庁を促進する。 イ・部活動指導に関する方針を遵守し、業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。	・時間外勤務時間（一人当たり平均）を5％減少させる。[336時間で6％の減（4月～3月）] ・年間時間外勤務時間720時間を超える教員を0名にする。[2人（4月～3月）]	